

岡山造血細胞移植患者会「きぼう」は10月5日、骨髄・臍帯血バンクへの理解と協力を呼びかける市民公開講座を岡山市で開く。白血病患者の先頭に立つて骨髄バンク設立を呼びかけた大谷貴子さん(53)を招き、闘病体験や骨髄バンクの意義を語ってもらう。大谷さんは大学院生だった。

骨髄バンク 理解、協力を

た1986年、慢性骨髄性白血病と診断された。まだ国内では骨髄移植は夢の治療とされていた時代、入院生活を送りながら骨髄バンク実現の署名運動に身を削り、88年、母から骨髄移植を受けることができた。

退院後、東海骨髄バンクを設立。全国骨髄バンク推進連絡協議会立ち上げに加

設立に関わった大谷さん講演

岡山の患者会 来月5日公開講座

わり、骨髄移植推進財団が骨髄移植を受けたとき（現日本骨髄バンク）設の主治医でもあり、その立後、現在まで評議員をつながりから講師を依頼務めている。

した。

「きぼう」は県内で骨 公開講座は当日午前11

髄移植などを受けた患者 時々午後1時、ピュアリ

たちが集い、2009年 ティまきび（岡山市北区

に発足。会員約60人。事 下石井）。無料。定員2

務局責任者の山邊裕子さ 00人。講演後、大谷さ

ん(62)は3度の骨髄・臍 んを囲む懇親会（参加費

帯血移植を乗り越えてき 4千円）は事前申し込み

たが、岡山大病院で山邊 が必要。問い合わせは山

さんの主治医となった谷 邊さん（086-239

本光音教授は、大谷さん ー3825）。。